

かけ橋

まだ見ぬ君へ…



原田幼稚園での熱演風景。
園児たちも大喜び。

今回は、市内の幼稚園や保育園などで人形劇を中心に歌遊びや仕掛け紙芝居、影絵などを披露している「ひよこの会」を紹介します。

ひよこの会

ひよこの会は今から十二年前、岩松幼稚園PTAの有志とそのOGが園児に手づくりの紙芝居や人形劇を見てもらおうと結成されました。そして「ただの絵本の読み聞かせではなく、子供たちが見て楽しめるものを」をモットーに活動してきました。その活動は口コミで広がり、ここ数年は本拠地である岩松幼稚園はもちろん、市内の幼稚園や保育園からも出演依頼があるほどの人気ぶりです。

代表の小林仁美さん(松岡)は、次のように話してくれました。「私たちはもつと子供たちが



皆さんが持っている人形もすべて手づくり。

小林 方
六二一五三三三

楽しめるようにといろいろ工夫をしています。脚本・演出・音楽・演技・小物づくりをそれぞれに得意としている会員がいて、すべて手づくりですので、アイデアをすぐに取り入れることができるのが強みですね。ことしは影絵に挑戦しています。

私たちは家に帰れば普通の母親ですが、訪問先の子供たちの笑顔と『また来てね』の言葉が励みとなって、今まで続けることができました。また、毎週金曜日が製作や練習の時間ですが、学校のクラブ活動のように楽しんでいきます。最近では出演依頼もふえ、とてもうれいですね。ただ、会員数が十数名と少なく、時間のやりくりを悩まされています。もし興味を持たれた方がいましたら、一緒に活動してみませんか。ご連絡をお待ちしています」

お問い合わせ 小林 方

市長への手紙から

ペットボトルのリサイクルを

今回は、森島にお住まいの木村さんから、ペットボトルのリサイクルについてお手紙をいただきましたので、ご紹介します。



木村清美さん【写真右】
慶太くん【写真左】
公美ちゃん

「市長への手紙」から

現在、富士市ではペットボトルは燃えるごみとして出していることになっています。しかし、ペットボトルはリサイクル可能なものです。私は燃えるごみの中に入れてしまうのが心苦しく、分別回収している勤務先に持っていく、ペットボトルを捨てています。また、二児の母親としてペットボトルを燃やすと有毒ガスが発生することはないかと心配です。

最近、お店に並ぶ飲み物は缶よりペットボトルがふえています。今後富士市でもペットボトルのリサイクル計画を立ててほしいと思います。

「市長からの回答」

ご提言ありがとうございます。富士市では大淵にある環境クリーンセンターで可燃ごみを燃やしています。この施設では、ご

みを燃やしたときに発生するエネルギーで発電をし、施設内で消費するほか、余剰電力を売却して収入を得ています。ペットボトルやトレーなどの廃プラスチックは発熱量が多いため燃焼促進剤として利用できることから、燃えるごみとしてきました。しかし、総合的にごみ減量化や地球温暖化防止などを考えると、分別回収によるリサイクルを推進することが重要であると考え、ペットボトルに関してはスーパーなどを拠点として回収することを検討しているところです。その実施に当たってはご協力をお願いします。

なお、環境クリーンセンターの焼却炉から発生するダイオキシンは、国が定める基準値以下となっています。

▼問い合わせ▲

環境衛生課 内線二〇五三